

周手術期エキスパート・ナースの育成

中央手術部：深澤佳代子

1. はじめに

日本看護協会では、平成7年度に正式に認定看護師制度が発足し、救急看護および創傷・オストミー・失禁看護（WOC）の分野で約60名の認定看護師が活動を開始している。この2分野の他、重症集中ケア、ホスピスケア、がん化学療法看護、訪問看護、感染看護についての分野特定がされ、教育が開始されつつある。

一方、周手術期看護については、専門看護師や認定看護師の検討開始時から同時に検討されていたが、未だ分野特定についても全く未定の段階である。今年度、日本手術看護学会関東甲信越地区で周手術期看護師認定に向けてのプロジェクトが開始されたところである。

ここで3つのキーワード、専門看護師、認定看護師、エキスパート・ナースについて簡単に説明したい。

専門看護師、認定看護師どちらの制度も、深い専門的知識と優れた看護ケア技術を持つ人材を社会に送り出し、質の高い看護ケアを提供することを目的とし、認定は日本看護協会でされる。主な違いとして役割、教育背景があげられる。専門看護師の役割は、実践、教育、相談、調整、研究であり、一方、認定看護師の役割は実践、教育、相談である。

エキスパート・ナースとは、ここでは、認定看護師等の資格はないが、ある特定分野で熟練した看護技術と知識を有する者とする。

先ず、特定分野として認定されるには日本看護協会では独自の看護ケア技術と知識、5年以上の実務経験を有すること、その内特定分野で3年以上の経験があること、資格習得には6ヵ月以上の教育訓練を要する等の条件が必要とされている。エキスパート・ナースが、認定看護師と同等のレベルに匹敵すると考えるならば、周手術期看護のエキスパートは、周手術期看護および麻酔看護の知識・技術を十分に持ち、さらに周手術期看護の経験を十分に有する、と言い換えることができる。

今後、医療において、手術の占める位置、その上で周手術期看護のエキスパートの必要性、また、エキスパートを育成するにはどのような教育が必要なのか、経験を高めながら述べたい。

2. 統計資料から見た医療における手術の位置付けと周手術期看護のエキスパートの必要性

日本の医療の動向を見てみよう。医療施設の種類別にみた推計患者数の年次推移—入院（日本の患者と医療施設—1995、厚生省監修1997）では、入院患者は約143万人、内訳では精神障害を除き、循環系、悪性新生物が増加傾向を示している。

国民医療費の推移を見ると、28.8兆円（平成10年厚生白書）のうち、一般医療費は21兆円であり、病気の種類別では循環系、悪性新生物、消化器系の疾患に対するサービスが多くを占めている。また、入院医療費に占める手術費の割合の推移を見ると、経年的に増加傾向が著しい（医療白書、1996）。

そして、一般病院における主な手術の実施状況では、規模の大きな病院になればなるほど心臓手術や悪性新生物に対する手術の割合が大きくなっている（日本の患者と医療施設—1995）。

悪性新生物や循環器疾患ではこれからも外科的治療が大きな位置を占めるであろうし、そうする

と必然的に手術中の患者に専門的な看護を提供する周手術期看護のエキスパートが必要とされることは言うまでもないことである。周手術期患者の特に手術中の安全を守るための看護は周手術期看護に携わる者にしかできない専門性の高いものである。

3. 認定看護師制度について

日本看護協会認定看護師制度の検討から発足の経過について過去4年間の看護白書から拾ってみたい。認定看護師制度は平成6年から検討され、専門看護師の専門看護分野と重ならない領域で、しかも、より限定された看護分野について熟練した看護者の育成と認定を行う制度として平成7年度から発足された。認定看護師の看護分野の特定の要件として次の5項目があげられている。

- ①看護実践の積み重ねだけでは習得できない特別の知識・技術を必要とする分野であること。
- ②他の看護分野と区別できる特別の技術や知識の存在が重視されること。
- ③社会や国民の要請が高い分野であり、看護の実践がある程度示されている分野であること。
- ④何らかの法的支援、経済的支援、組織的支援があること。
- ⑤認定看護師のカリキュラムが提示できること。

認定看護分野は、その分野の専門家や関連学会または研究会等の団体からの申請に基づき、先の①～⑤の要件を十分満たしていると認められた場合に最終的に日本看護協会理事会の議決を経て特定される。

平成7年度看護白書「認定看護師制度試案について」において、育成が急務の看護分野として周手術期看護を含む7分野があげられており(表1)、現在のところ、他の6分野は既に分野特定がされ、育成が開始されている分野もある。特に、「救急看護」と「創傷・オストミー・失禁看護(WOC)」については、専門学会の支援により、ある程度の教育訓練が行われていた。「救急看護」については、日本救急医学会独自で救急看護婦として資格認定を検討していたという経緯があった。

また、認定に伴う研修は看護協会またはそれに類する機関で6ヵ月間で行われている。平成9年の日本看護協会の救急看護およびWOCの認定看護師資格取得者の研修中の身分は出張、休職あるいは退職であった。認定制度は現在のところ、あくまで看護協会だけの認定であり、国家資格のようなものではないことから6ヵ月間の出張や休職はなかなか難しいものがある。

いくつかの施設では、院内措置でエキスパートとして認定しているところもある。しかし、多くの施設ではエキスパートよりも、どの部署でも役割が果たせるジェネラリスト指向である。従って、日本ではエキスパート・ナースが育つ土壌が十分ではないといえる。特に、周手術期看護についてはどの施設でも認識が低いのではないだろうか。ただ、医療の進歩や患者の高齢化を考慮すると周手術期看護のエキスパートの存在は必須であり、今のところ、On the job training (OJT) でエキスパートを育成していかざるを得ない状況である。しかし、それと同時に大きな団体の支援も仰がなくては周手術期看護認定看護師の誕生は実現しないと考えている。

4. エキスパート・ナースの育成

エキスパート・ナースには様々な条件があげられる。まず、臨床経験であるが、手術室の場合は周手術期看護経験5年以上、できれば7～8年、複数の看護分野の経験があれば望ましい。さらに、

専門分野の知識、技術だけでなくリーダーシップ論、人間関係論、看護管理、研究法など基礎的学習を終了していることが必要である。

次に、エキスパート・ナース育成についてわれわれの施設の状況を示したい。

われわれの病院看護部教育委員会では、看護婦経験3年目までを基礎コースとして、「3年間でリーダーシップを発揮できる」までを目標にしている。4、5年目ではプリセプターとして「新人教育を担当し、キャリア開発の方向性が示せる」ことを目標としている。それ以降は専門領域コースとして「専門看護ができ、研究的に関わることができる」ことを目標とした教育計画を立てている。専門領域コースは、今年初めての試みであるが、各部署から専門領域の研修スケジュール、講義および実習15時間1単位として提出され、院内院外問わず誰でもが自由に受講出来る仕組みである。このコースは信州大学看護部ホームページで院外にも紹介している。単位認定は、受講するコースの全計画時間の3分の2以上の出席および試験合格により認定される。今年は、全15コースが計画され、実施されている。例えば試験に合格したからといっても、まだエキスパートとして認定するものになってはいないが、今後、内容を十分検討した上ではあるが、院内のエキスパート・ナース認定の足掛かりとなる可能性もある。

ちなみに、手術看護専門コースとしては、基礎編16時間の内容を計画した。講師はできるだけ看護スタッフ自ら行うこととし、内容は基本的には担当者に任せているが、他の部署または他の施設から聴講の可能性もあるため、専門性が高く最新の情報が含まれたものとしている。認定試験については、コース担当の婦長に任されているが、手術室の場合は、実技試験の必要性も検討中である。今後、さらに、経験年数別の内容についても検討したい。

5. まとめ

周手術期看護のエキスパート・ナースを育成するのに、今後も各施設様々な工夫をしていかななくてはならないと考えられる。同時に、その必要性を感じている周手術期看護に携わる看護婦の結束が前提であるが、日本手術看護学会等の団体を基準を作成し、日本看護協会に周手術期看護認定看護師の分野特定の申請をしていただきたい。また、実現のために日本手術医学会のバックアップをこの場をお借りして是非お願いしたい。

参考文献

- 1) 厚生省監修：日本の患者と医療施設－1995,1997
- 2) 厚生省：平成10年厚生白書, 1998
- 3) 医療経済機構編：医療白書, 1996
- 4) 日本看護協会編：看護白書, 1995,1996,1997,1998
- 5) 古川久敬他：特集・リーダーナースをどう育てるか、
Opeナーシング11(4),1996
(1998, 第19回日本手術医学会シンポジウムにて発表した)

表1 育成が急務の看護分野

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">・ET看護・救急看護・クリティカルケア看護・周手術期看護・ケアマネージメント・がん性疼痛看護・感染管理看護 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

平成7年度看護白書・認定看護婦(士)
試案について

P64より抜粋